

作品を通して 手織りならではの奥深さを伝える

原田 明子さん

赤穂緞通たつの工房きおん



■もう一度赤穂緞通の織り手に

赤穂緞通とは明治初期に赤穂の女性が考案したとされる敷物で堺（大阪府）、鍋島（佐賀県）とならぶ「日本三大緞通」の一つ。柔らかな木綿の手触りと立体的な文様が特徴で、全て手作業で織られます。織った糸の先を鋏でカットする「摘み」という独自の工程により、長年使用しても文様が型崩れしにくいという利点があります。その風雅な文様に魅せられ皇室、政府にも納入されてきましたが戦争の影響で綿花を輸入できなくなつたこと、機械化が難しかったこともあり次第に赤穂緞通は衰退。しかし約二十五年前に赤穂市が赤穂緞通技法講習会を開催し、その修了生が再度工房を立ち上げるようになりました。

私も講習に参加した従妹から習い織り始めました。ただ結婚・出

産で自分の時間をつくるのが難しくなりここ数年は織り機から遠のいていました。

ある時、知り合いの誘いを受け赤穂緞通の工房へ。やはりもう一度織ってみたいという気持ちが高まり工房に通って練習を重ねました。織り機を持っていなかったのですが伝統建築を専門とされている大工さんが快く作ってくださり、たつの市の創業支援制度を活用して自宅横に工房も建て、二〇一六年秋から赤穂緞通の製作・販売をスタートしました。

中々まとまった時間をとることが出来ず、一つの作品を織るのに約一年かかります。こつこつと根気のいる作業で大変ですが、おかげさまで制作依頼を頂くことも増え、昨年は展示会を開催するまでに至りました。

■こだわりは

伝統を守りつつ制作活動を続けていく必要がありますが、それだけだと面白くないので常に何か新しい風を吹き込めたらと思っています。

例えば赤穂緞通の基調色は藍色ですが、私のオリジナルを出したという想いで緑や赤などの色を使って織り上げることもあります。一般的に赤穂緞通は一畳サイズが百万円〜百五十万円と高価ですが小さなサイズのものを作ったり、使われなくなった古い緞通を部屋の装飾品としてよみがえらせ、販売したりと一人でも多くの方に気軽に、身近に赤穂緞通を感じて頂けるよう取組んでいます。

■これからは

一〇〇年もつ緞通を作りあげられるような織り手を目指して今後にも精進していきます。そして日本はもちろん、世界中に赤穂緞通の素晴らしさを広めていきたいです。



現在制作中の作品

所在地 たつの市龍野町島田602-6
TEL 090-4643-6310